

きゅう と の しろじんじょうこうとうしょうがっこう ほうあんてん  
旧登野城尋常高等小学校の奉安殿

指定年月日／2008（平成 20）年 11 月 4 日 所在地／登野城 290（登野城小学校）



奉安殿とは戦前、天皇・皇后の写真（御真影）と天皇の考えを示した文書である教育勅語を安置していた施設である。登野城尋常高等小学校（現・登野城小学校）の奉安殿は、1931（昭和 6）年 2 月 21 日に着工し、完成後の同年 12 月 28 日に御真影奉遷式が行われた。奉安殿は鉄筋コンクリート造りで、正面には観音開きの鉄扉があり、内部には御真影を安置する檜材の棚が残っている。アーチ型屋根上の正面に天皇家の菊花紋章のレリーフがみえる。1981（昭和 56）年頃、校舎の建て替えにともない、当初あった場所から現在の場所に移転されている。なお、奉安殿前に建つ 2 本の門柱は、当時の校門を移設したものであり、奉安殿の関連施設ではない。

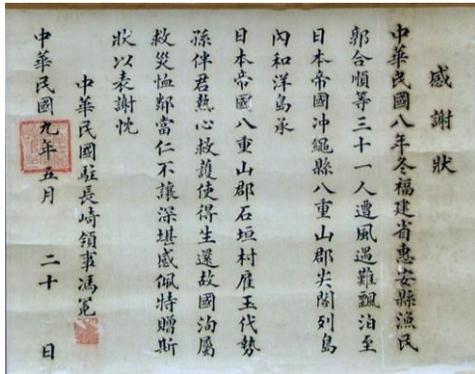
戦後、ほとんどの奉安殿は撤去、解体され、学校敷地に現存する例は少ない。県内では、沖縄市の旧美里尋常

高等小学校跡（沖縄市指定文化財）、本部町の旧謝花尋常小学校跡、宮古島市の旧池間尋常小学校跡に残るが、いずれも現在は学校敷地ではない。登野城小学校の奉安殿は、学校敷地に現存する県内唯一のものである。

市指定

たまよ せ そんぼんあて とよかわぜん さあて  
玉代勢孫伴宛／豊川善佐宛  
せんかくれつとうそうなんきゅうご かんしゃじょう  
尖閣列島遭難救護の感謝状

指定年月日／  
2011(平成 23)年 12 月 28 日  
所在地／  
登野城 4-1(八重山博物館)

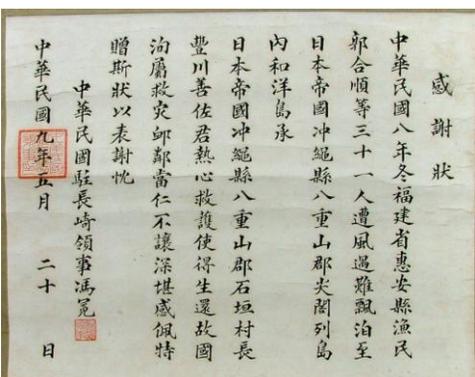


玉代勢孫伴宛

この 2 通の感謝状は、1920（大正 9）年に中華民国駐長崎領事馮冕より、石垣村職員・玉代勢孫伴と石垣村長・豊川善佐に贈られたものである。1919（大正 8）年 12 月、中華民国福建省の郭合順ら 31 人の漁師が漁の途中嵐で遭難、尖閣諸島の魚釣島で鰹節や海鳥の剥製を製造していた古賀善次経営の工場の人々に救助された。31 人は翌年 1 月に石垣島に移送され、その後、台湾を経由して福建省へ無事戻ることができた。

外務省外交史料館所蔵資料によると、感謝状は漁民らの救護に尽力した 7 人に対し贈られたと記されている。郷土史家の牧野清氏は、そのうちの 4 人を「豊川善佐、古賀善次、玉代勢孫伴、松葉ロブナスト」としている（『新八重山歴史』）。他に、当時石垣島にあった八重山波之上炭鉱事務所の職員・廖徳聡にも贈られたことが分かっているが、現存が確認されているのは、玉代勢孫伴宛、豊川善佐宛の 2 通のみである。

この感謝状は、石垣市の行政区に属する尖閣諸島の歴史や、当時の社会状況及び世界情勢を知るうえで重要な原史料である。



豊川善佐宛